

## 第1回江別市行政審議会 会議録（要点筆記）

日 時：平成25年2月8日（金） 18:30～20:50

場 所：江別市民会館 37号室

出席委員：押谷委員、河西委員、佐藤委員、隼田委員、安孫子委員、梶野委員、徳永委員、藤本委員、町村委員、阿部委員、蛭名委員、白鳥委員、湯浅委員、岸本委員、草野委員、高儀委員（計16名）

事務局：三好市長、鈴木企画政策部長、米倉企画政策部次長、川島課長（政策調整課）、西田参事（総合計画担当）、村田主査（総合計画担当）、長谷川主任（総合計画担当）

### ■開会（鈴木企画政策部長）

### ■委嘱状交付

### ■市長あいさつ

### ■委員の紹介（鈴木企画政策部長）

### ■会長・副会長選出

#### ○ 鈴木企画政策部長

本日初めて一堂に会したため、会長・副会長を決めるのは難しいかと思いますが、どのような方法で選出したらよいか、ご意見ございませんか。

#### ○ 湯浅委員

今回の審議会の設置目的や役割から考えると、えべつ未来市民会議の提言をまとめるにあたってご尽力された委員の中から就任されている学識者の方に、会長・副会長をお願いしてはどうでしょうか。

#### ○ 鈴木企画政策部長

他にご意見ございますか。無いようですので、湯浅委員の提案を踏まえて事務局から会長・副会長の案を提案させていただいてよろしいでしょうか。

#### ○ 全委員

異議なし。

#### ○ 鈴木企画政策部長

えべつ未来市民会議の有識者委員の中で、全体の議長を務められた佐藤委員に会長を、副会長は同じく市民会議で部会長を務められた押谷委員にお願いしたいと考えますが、いかがでしょうか。

○ 全委員

異議なし。

⇒ 会長は佐藤委員、副会長は押谷委員に決定。

○ 佐藤会長

ただ今ご指名いただいた佐藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。10月30日に市長に市民会議の提言書をお渡ししました。ようやく終わったと思っていましたが、次の段階に入るということで、責任を持って委員を引き受け、また1年間しっかりとやっていきたいと思っております。皆様のご協力、よろしくお願いいたします。

○ 押谷副会長

ご指名いただいた押谷でございます。佐藤委員と同様、市民会議の部会長を務めていましたが、今回このような形で副会長を任命されましたので、会長を支えながら皆様のご意見を踏まえて進めて参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

■新しい江別市総合計画について諮問（市長から佐藤会長へ諮問書を手交）

■資料説明（事務局より一括して説明）

■資料に関する質疑応答・意見交換

<江別市行政審議会の概要>

○ 湯浅委員

総合計画というのは非常に幅広く、これまでの総合計画であれば7つの大きな分野別になっており、市民会議の提言も同じように分野別になっています。個別の分野別の議論は、それはそれとして必要ですが、あまり分野別のことに力を入れ過ぎると、施策相互間、関係する組織・団体間など横の繋がりが希薄になり、市民にもわかりづらくなるのではないかと懸念されます。審議をこの場で一手に引き受けるのか、あるいはいくつかのグループに分けて審議し、それから全体会議に諮るのかなど、今後の審議会の進め方についてどのように考えているか伺います。

○ 事務局

幅広い分野にわたる総合計画になりますので、今後、皆様にいくつかの部会に分かれていただきご議論いただくことを考えています。

<第5次江別市総合計画後期基本計画の達成状況について>

○ 白鳥委員

達成状況というのは、第5次総合計画で設定した目標に対する達成状況ということですが、大前提として、良いところを伸ばすのか、落ちているところを盛り上げていくのか、色々考え方がある中で、この資料ともう一つの「道内他都市との社会指標の比較」の2つの資料をどのように読み取ればよいのかご説明をお願いします。

○ 事務局

「道内他都市との社会指標の比較」については、今後施策を進めていく中で強みをさらに伸ばすのか、あるいは弱いところを補っていくのかといった視点で、施策のまとめ方を考えていくために作成した資料で、第5次総合計画の達成状況の資料との直接の関連は考えていません。

○ 白鳥委員

「3政策別の達成状況」には政策ごとに達成割合が示されていますが、一つ一つの成果指標ごとの達成状況はどこかに記載されていますか。また、一つ一つの成果指標の達成状況を集計した結果が、「3政策別の達成状況」の欄の達成割合という理解でよろしいでしょうか。

○ 事務局

具体的な個別の成果指標の達成状況等については、別冊のA3版の「施策別達成状況」の資料に記載しています。成果指標の目標値・現状値と、それをもとに判断した達成状況を記載しており、その一つ一つの成果指標の達成状況を全体として集計してまとめたものが「3政策別の達成状況」の欄の達成割合となっています。

○ 佐藤会長

事務局から説明があったとおり、別冊のA3版の方もぜひじっくりと見ておいてください。

**<えべつ未来市民会議 各部会提言の主なポイント（戦略テーマ提言の概要）>**

○ 白鳥委員

このような市民会議でまとめられたものが、最後に審議会の場に出されるということは良くあるパターンですが、下手をしてハレーションが出てくるというケースが間々見受けられます。今回の審議会での検討のプロセスや結果というのは、えべつ未来市民会議の委員、もっと広くいえば市民に対して、どのようにお知らせしていくのでしょうか。

○ 事務局

市民会議から提言をいただき、それを踏まえて計画の骨子を考えているところですが、それについてはできる限り市民の意見を反映するようにと市長からの指示を受けています。そして、提言内容が実際に計画に盛り込まれたかどうかのポイントになると考えていますので、実際に市民会議に参加していただいた市民委員の中から3名の方に今回の審議会の委員として参加していただき、同じく市民会議の有識者委員として参加していただいた市内4大学の先生方にも引き続きこの審議会に参加していただいているので、提言の総合計画への反映状況についてご確認いただけたらと考えています。ただ、実際に反映できなかったものについての説明責任はありますので、その点も含めて市民の皆様にお答えしていかなければならないと考えています。

○ 蛸名委員

3ページの安全・安心部会の所掌に「防災、除排雪、防犯、救急」と記載されていますが、このうち除排雪については全く触れられていません。提言書本体には除排雪について

も書かれています。この市民会議が行われた時期が冬期間ではなかったために除排雪に関する意見が少なかったのでしょうか。1年のうちの約4分の1が冬期間ですので除排雪についても配慮が必要ではないかと考えます。

#### ○ 事務局

市民会議の立ち上げは昨年2月で、冬期間であったため除排雪に関するご意見も実は沢山いただいています。また、市民会議以外にも様々な団体との意見交換も実施しており、その中でも除排雪についてのご意見はいただきました。しかし、除排雪を所掌した安全・安心部会の議論では、当然除排雪は重要なことだが、戦略として打ち出すのが適切かどうかという意見があり、提言書本体の51ページに記載されているように「除排雪についても当然、市が取り組まなければならない問題ではあるが、雪国では避けることのできない問題であり、江別市が他市に比べて特別劣っているわけでもないことから、戦略テーマにせずまちづくり政策の中で整理した」という結論となっており、戦略テーマとはなっていませんが、市政全般にわたるまちづくり政策の中では除排雪対策についても取り組むこととされています。

### <江別市将来人口推計>

#### ○ 安孫子委員

私は都市計画審議会の委員もやっていますが、以前に都市計画マスタープランを策定するときにも人口推計が最初の課題として出てきました。そのときもコーホート要因法で推計した結果、人口がかなり増加するという結果が出ましたが、社会情勢からしてこれはあり得ないということで、1万人くらいの人口増加に抑えるという大雑把な取り扱いをしました。現在、その数値すら達成していない状況ですが、そもそも方法論として推計方法が適切なかどうかということ自体我々にはわかりません。最適な方法がどういったものかが分からない以上、この資料の良し悪しは判断できません。推計という非常に難しい問題を今ここで話題にしています。人口がどれくらいになるかということが、インフラその他すべてのことに関係してきて、それをもとに計画がはじまるということなので、非常に重要なことだと思います。したがって、この将来人口が確実に推計できる方法にもとづいて出された数値なのか、そうではない数値なのかを認識しておかなければならないと考えます。

もう一つ、自然的には全国的にも人口減少傾向ですが、各自治体の長としては、自分のまちだけは減らしたくないと考えています。その方法としては、企業誘致であったり、住環境改善による人口誘導であったりするわけですが、そうすると総合計画として持つのは推計人口が良いのか、目標人口が良いのかという点も検討が必要ではないでしょうか。自然に減少することがわかっている、総合計画としてそれを是とするかは別な角度で検討が必要ではないかと考えます。目標人口という考え方も必要ではないでしょうか。

#### ○ 蛭名委員

出生率や出生数は資料に書かれています。流入や流出も踏まえている推計数値なので

しょうか。

○ 事務局

純移動率というものがあり、転入や転出といった社会増減を実数で把握したうえで推計しています。また出生や死亡といった自然増減も踏まえて推計しており、国立社会保障・人口問題研究所の推計方法と同じ方法で推計しています。

○ 白鳥委員

人口が都市のパワーにどれだけ影響しているか、というところが最終的に議論になるのだと思います。このまま経過するとこのような人口になるということを示したのがこの資料で、この人口だと都市のパワーが足りないという議論になれば、ではどの年齢階層を増やすのか、そのためにはどうすればよいのかというように議論が展開していくと考えるので、ここでは一旦現状把握だけでとどめておいてよいのではないのでしょうか。都市計画マスタープランは容積率の方に転換しなければならないので、シビアに推計しなければなりません。総合計画は今後の都市の全体の方向性をどうするかということなので、ひとまずはこの程度で良いのではないのでしょうか。

### <道内他都市との社会指標の比較>

○ 町村委員

類似都市の2市はどのように選ばれたのですか。もう一つ、この資料全体のまとめ方について、今回の審議会の目的の一つが江別のまちの優位性をさらに強くするという観点であるなら、9都市の平均点と比較するのは、果たして手法として適切でしょうか。とりわけ経済基盤分野やにぎわい・交流分野、社会保障、医療分野といった部分については、具体的にターゲットとなる都市を選択して比較するとか、あるいは8都市全部の順位を載せれば、いろいろと面白いアイデアが出てくるのではないかと思います。

○ 事務局

総務省で自治体の規模と産業構造をもとに類型化した分類があり、その分類が当市と合致した小樽市と北見市を類似都市として選定しました。岩見沢市については、隣接していることと、人口規模は異なるが、類型としては同じ区分のため比較対象としています。偏差値化して評価していることについてのご指摘もいただきましたが、実際の各市の具体的な数値も17ページ以降の資料編にデータとして記載させていただいているので参考にいただければと思います。また、それぞれの分野において特徴的なポイントとなる市は、7ページ以降の調査結果の下段の文章の中に記載していますので、こちらも併せてご覧ください。

○ 湯浅委員

各市それぞれ歴史的な発展経緯や地理的・自然環境的違いがあり、現状の動かしがたい事実、数値として計れるものとしてはこの資料のとおりかと思いますが、これから江別をどうしていくかを考えるにあたって、そこに住んでいる人々の満足度なども参考にした方がよいと思います。アンケート調査などが一つの手法としてありますが、そういった数値

に現れない課題をどのように把握し、これからの江別市の方向性や具体的な対策をどうしていくか、というところに着目していかなければならないのではないのでしょうか。市民の満足度の他に、市外の人から見た江別に対する思いといったものも把握できればよいと思います。そういった市民満足度や、市外の人から見た江別に対する満足度や知名度のようなものがわかる資料はありますか。

○ 事務局

市民の生活に対する満足度については、市民アンケート調査を行っておりますので、次の審議会でご提示させていただきます。

○ 湯浅委員

NHK などが行った全国の県民性調査のようなデータを見たことがある。そういったものも参考になると思います。また、無理なことかもしれませんが、江別から離れて何年も経った人たちの思いをもし把握できる手法があれば、現在の市民の満足度とあわせて、市外から見た江別に対する客観的な評価もわかるので参考になるかと思います。

○ 事務局

もしそのような資料があればご提示します。

○ 安孫子委員

こういった他都市との比較は普段あまりやらないので参考にはなりません。ただ、どうしても行政の視点で、行政区域で区切って考えていると思います。しかし、市民一人ひとり、あるいは産業においては、江別市だけで活動が完結している場合もあればそうではない場合もあります。そういった行政区域を越えた活動がどのように影響してくるのか、ということこれまで行政側はあまり考えてきていないのではないのでしょうか。実際の市民活動は行政区域の垣根を越えて行われているわけですから、そのことが市の動きにどのように関わってくるか、というのはこれから大きなポイントになってくるので、総合計画でも考慮しておくべきではないのでしょうか。また、それぞれが行政区域ごとに計画を考えるのではなく、近隣同士の繋がりの中で考えなければ変な計画ができてしまうのではないのでしょうか。他都市との比較は参考になりますが、逆にこのことによって他都市とどのように関わっていけばよいのかということも考えていく必要があるのではないかと思います。

○ 町村委員

18ページの「にぎわい・交流」の「他市区町村への通勤者比率」について、札幌市が2番になっていますが、これは札幌市内の他区への通勤も含んでいるのですか。

○ 事務局

他区への通勤も含むと思われますが、確認して次回ご説明させていただきます。

## <その他>

○ 阿部委員

3～4月は各自治会・連合会の役員会・総会などの集まりが大変多くなるので、会議の日程をできるだけ早めに連絡してください。

○ 徳永委員

次回に向けて感じていることですが、第5次総合計画の達成状況とか、あるいは他市との比較など、様々な現状分析結果を機械的に整理して提示していただきました。資料を読み込むことによって、ある程度これらの数値がどのように江別の市民に影響しているかわかると思いますが、行政としてそういった分析結果や傾向についてどう考えているのかを今後の審議会の議論の中で質疑する機会がありますか。数値として悪くても、本当にそれが市民にとって悪いことなのかどうか、行政サービスとして市民から良くないという評価なのか、数値が良くても市民が本当に満足しているのかどうか、そういったことについて行政サイドの考え方を聴取する機会がありますか。

○ 事務局

ご質問があれば積極的にお答えをしたいと思います。この審議会でまとめられた意見を、次は議会に諮ることになります。議会の中でも特別委員会を設置して、その中でまた議論していただいて、最終的には議決を経て江別市の総合計画となる、という策定手順ですので、審議会の中で十分議論していただいて、不明な点については当方でお答えをしていきたいと考えています。その場ですぐに回答できないものについては、次回に持ち越させていただくこともありますが、最大限、審議会の議論の中で我々行政の考え方も説明させていただきたいと考えています。

○ 河西委員

今回の審議会の審議事項は、江別市のこれからの都市像に向かってどうやって進めていくのかという「まちづくり政策」と、江別市の持つ優位性を活かしてまちの魅力を高めていく戦略テーマを選んでいくという「みらい戦略」の2つについてとのことですが、審議会での議論の中心はまちの魅力を高めていくという戦略の部分になるのですか。さきほどの資料の第5次総合計画の達成度が低いところについて、この審議会でどう取り扱っていただければよいのでしょうか。

○ 事務局

「まちづくり政策」というのは市政全般にわたるもので、市としてすべての分野において施策を進めていかなければならないという使命があるため、当然この部分についてもご意見はいただきますが、今後のことを考えると、どうやってまちの魅力を高めて江別を元気にしていくかという戦略を設定する「みらい戦略」の方が重要なポイントになると考えているため、こちらに力を入れて議論していただきたいと考えています。第5次総合計画の中で達成状況の低いものについては、最初の成果指標の設定自体に問題があった指標もあるなど、どう扱うべきか一律には判断しかねますが、できるだけ新しい総合計画の中では達成状況の低いもの、改善できるものは改善する方向で施策を組めないかと考えています。そういったことも含めて、指標値について分析した上でご審議いただきたいと考えています。

○ 河西委員

であれば、各委員はこういうまちづくりをしたいとか、こういう戦略をとれば素晴らしいまちになる、というそれぞれの価値観に基づいて色々と議論を戦わせて、江別の特性や優位性を活かした計画をつくり上げていくということで理解します。

○ 隼田委員

市民会議で議論してきたことの中で、それぞれの部会から出てきた意見にかなり重複しているものがあります。まちづくり自体が非常に幅広い視点が入っているので、どうしても重複が出てきますが、この重複しているところというのが実は重要なポイントだと考えます。そのようなところも読み取っていただき、今後の議論で揉んでいくことができると、みらい戦略のようなものに昇華させていくことができるのではないかと考えます。さきほどから人口推計の話などが出ていますが、それをプラスの方向に、少しでもいい方向に変えていくための市民会議でしたので、その市民会議の提言をどれだけ実現できるかという点で議論していければと考えています。

○ 阿部委員

会議の終了時間をあらかじめきちんと決めて進行してください。

○ 岸本委員

何か月間もかけて市民会議の提言をまとめるまでに、行政批判など色々なことがありましたが、市民会議全体を通した考え方として、基本的には前向きにこれからの江別をどうするのかを考えようということがありました。住みやすい江別にするにはどうしたらよいのかというのを基本的な考え方として各部会で議論をしてきました。次回計画の骨子案が提示されるとのことですので、我々市民会議の意見を受けとって行政側がどのような案を作成したのか期待したいと思います。

○ 高儀委員

真剣に市民会議を進めてきました。ゼロからスタートして、どうしたら住みやすい江別、魅力ある江別になるのかを考えてきました。提言書にも記載してありますが、すぐできるもの、5年、10年の間に取り組むものという3つの視点で考えてまとめてありますので、提言書を熟読していただいて議論していただければと思います。

○ 藤本委員

確認ですが、江別市の弱い部分を補いながら、江別の強みを伸ばしていくという考え方でよろしいでしょうか。

○ 事務局

戦略として取り組む部分については、強みを活かしていくのも大事ですし、弱い部分に



力を入れていかなければならないということも出てくると思うので、両面からご検討いただきたいと考えています。

○ 梶野委員

事務局から説明を受けた資料が本当に、今回の審議会に役に立つのか不安に感じています。江別の顔づくり事業に携わっているので、できるだけ自分の経験を活かして議論に参加していきたいと思います。

○ 押谷副会長

本日の資料で色々な江別の強み・弱みが示されましたが、その中で色々ご議論いただきたいと思います。今日の議論の中でも、例えば人口推計について、それが本当に正しいのかどうかということがありましたが、事務局から提示された資料をもとに、これはこうではないか、これは違うのではないかとということも含めてご議論いただければと思います。

■次回開催日程調整

第2回江別市行政審議会      3月27日（水）夜間

■閉会